

平成二十六年八月投句

長雨に肩をすぼめて夏の鷺

そこの丘の手前に立ちし虹の脚

葉を分けて潜る暗きに茗荷花

千屈菜に母の鼻歌聞こえる

秋の蝉途切れ途切れに鳴き始め

傘立てに虫取り網と白日傘

七夕の笹に願ふは一つにて

抑留をわづかに語り盆の月

仏花きらさず育て花木槿

勝利

母見舞ふ花に加えて葎の花

病棟のロビー七夕笹の立ち

背振嶺の萱の綱引く盆祭

新盆や跡継ぎといふ重たき座

七年の義父との暮し白芙蓉

まだ義父の声聞こえさう夏座敷

光子

【お休み】

佳与子

節子

由紀子

真理子